

ISO/TC 127 (土工機械) /SC 22/WG 22 (ISO 17757 自律式機械の安全性)

国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert)

砂村 (日立建機)、遠嶋、田中、出浦 (コマツ)

- 1 会議名称 : ISO/TC 127/SC 22/WG 22 (ISO 17757 自律式機械の安全性)
- 2 開催日 : 平成 24 年 2 月 8 日, 9 日
- 3 開催地 : ドイツ国フランクフルト (アムライン) 市 VDMA (ドイツ機械工業連盟) 会議室
- 4 出席者 : Dr ROLEY、Mr Elliott、Mr Stratton、Mr Crowell (Caterpillar)、Mr NEVA (Bobcat/斗三)、Mr Miller (米国コマツ)、Mr Caralichio、Mr Pan (Liebherr)、Mr Pillar (Wirtgen)、Mr Luukko (Sandvik)、Mr Kennedy (ISO 中央事務局)、砂村 (日立建機)、遠嶋、田中、出浦 (コマツ) 計 15 名出席
- WG コンベナー (主査) 兼 PL (プロジェクトリーダー) : Mr Elliott (米国、Caterpillar)

5 主要議題、議決事項、特に問題となった点及び今後の対応についての所見 :

背景及び従来経緯 : 大規模鉱山などで使用される無人式機械 (超大形の重ダンプトラックが多い) の自律式運転 (無線操縦ではなくプログラム制御により運転) の安全性に関して標準化との予備業務提案により検討開始、既に 2011 年 11 月に予備会合実施しており、今回は 2 回目である。なお、当初の目論みとしては無人運転のみが対象と思われるが、3D マシンコントロールのように、有人運転で、作業機の操作だけプログラム制御の場合にはリスクは低いと思われるもののどのように扱うかという問題がある。

5.1 会議概要 : 今回の会議の開催にあたっては、議長の Elliott 氏からはこれといった原案が用意されず、今回の会議も原案作成準備委員会の様相であった。開催参加各社もこの分野においてまだ経験不足であることは否めず、次回以降の進展を見守る必要がある。今回会合では論議が収斂せず拡散方向であったが、1 年くらいで作業原案 WD をまとめる必要があるため、次回くらいからは内容を絞っていく必要がある。

5.2 決定事項

- 1) 次回会議に向けて、4 月末までに、主だったリスクについて「Risk Criteria」をコンベナーに送る事が宿題になった。日本は positioning (自己位置推定)、infrastructure (GPS 基地局など)、control room (中央管制室?) を担当する事にした。
- 2) タイムフレームは 48 ヶ月とする。
- 3) 次の会議は 6 月 18~22 日にベルリンで EMC (ISO 13766 改正) .電気駆動及びハイブリッドの安全性 (ISO 14990) 国際作業グループ会議と同時開催。

6 次回開催予定：(開催年月日、開催国及び都市名)

6月18の週に他の電子・情報技術関連国際WGと順繰りに開催。場所はドイツ国ベルリン市のVDMA(ドイツ機械工業連盟)事務所会議未定。

以上